



### かけがえない住宅を デザインする。

性能・機能を損なわず、住み心地の良いデザイン性の優れた家を設計する。  
外観・内装・家具などの要素をつなぎ合わせ、  
家族が生活する場をイメージしながら、最適なデザインを生み出すこと。  
そこに住宅設計の醍醐味があります。

住宅を設計するとき心がけている一例をお話します。

かたちを形成する要素は線（直線・曲線）の集まりで形成されます。

線ひとつで仕上がりの善し悪しが決まることもあり、その線一つひとつに意味があり役割があります。

ありがちなのは殺風景な壁に意匠的な要素を入れて、線を増やしてしまうこと。

効果のある時もありますが、あえて殺風景な壁としてデザインすることも必要な時があります。

その壁の前にソファを置き家族が座る。

そうイメージすれば、それだけでも絵になり殺風景な壁がキャンバスになったりします。

その場所で生活されることを想像しながらデザインし、無駄な線を消してゆく。

引き算の先にあるプラスを考えることもデザインには重要だと思います。

## 柴崎 雄次

S・建築製作所 株式会社  
代表取締役



Y house | 2009



K house | 2010



N house | 2012



K house | 2013



F house | 2009





